

第 515 回友の会講演会 質問と回答

第 515 回友の会講演会（8/7 開催）はオンライン配信限定で開催いたしました。
参加者のみなさまからの質問と講師からの回答を、以下のとおり公開いたします。

（2021/09/01）

■質問者 A 様

オンライン講演会の学びをいただき、ありがとうございました。

大変、興味深く、映像に出された、写真をたくさんみて、さらにかんがえてしまう講義でした。白川先生のご経歴の「マラリア対策」「国際医療協力」に感心をもちます。

私は、ヴァヌアツについてはじめて話を聞きました。また、日常において、おみくじをするくらいで、呪術や邪術についてもはじめて聞きました。

生まれつき料理好きのせいか、「ヤムイモ料理」への関心があります。

また、「痛み」を調べるうちに「アク」にも感心を持つようになったので、赤ちゃんに薬草の施しをしていることも関心ごとです。

<質問>

- 1, 赤ちゃんが下痢をしたときに使った「薬草」が何か知りたい。
- 2, マラリアなどの感染症の時に、邪術での治療を施すのか。
また、邪術を人々は信じるという信仰のようなものなのか。
- 3, マラリアなど、感染症や病気に対し、村では罹患者をどのようにとらえるのか。

<講師回答>

この度は貴重なご質問をいただき、誠に有り難うございました。三つのご質問について、順に回答いたします。

1. 講演中に写真でご覧いただいた赤ちゃんですが、講演後あらためて当時のフィールドノートを確認したところ、このとき薬草はとくに処方されておりませんでした。赤ちゃんは治療師にお腹のあたりをマッサージされただけでしたが、その後、無事に快復したようです。

2. マラリアなどの感染症のときには病院などの近代医療で治療しようとするのが一般的ですが、伝統医療が利用されることも珍しくありません。また、邪術は一面では信仰のようなものとして捉えることもできると思います。

3. マラリアなどの感染症や病気の罹患者に対して、村の人々は心配したり同情したりし、罹患者が利用している医療の効果が薄いように見える場合、周りの人々は別の医療や対処法などについて情報提供し、利用を勧めたりすることが多いような印象を受けます。